

平成 2 3 年度

(第 2 / 3 回)

(集団研修)

持続的農村開発のための畜産振興

実施要領

平成 2 3 年 7 月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

目 次

1. 案件基本情報	1
2. 案件の背景・目的	1
3. 案件目標	2
4. 単元目標	2
5. 研修成果品	2
6. 研修員参加資格要件	3
7. 研修実施体制	3
8. 研修の評価	4
9. 研修付帯プログラム	5
10. 主な宿泊場所	5
11. その他	6

参考資料

- 付表－1 研修員関連情報
- 付表－2 研修日程（暫定）
- 付表－3 年度別受入実績表

1. 案件基本情報

(1) 案件名

和文：（集団研修）持続的農村開発のための畜産振興

英文：Group Training Program on “Animal Agriculture for Sustainable Rural Development”

(2) 受入期間

平成 23 年 7 月 18 日（月）～ 9 月 17 日（土）

(3) 技術研修期間

平成 23 年 7 月 21 日（木）～ 9 月 16 日（金）

(4) 受入人数、割当国

受入人数：12 名

割当国：インドネシア, マラウイ, ミャンマー, ネパール, パキスタン, パラグアイ, タイ, ウルグアイ, ザンビア, ジンバブエ（下線は受入国）

(5) 研修類型：課題解決促進型

(6) 使用言語：英語

(7) 関係省庁：文部科学省

2. 案件の背景・目的

多くの途上国の農村では家畜飼養が生計の一部として組み込まれており、家畜は、乳肉の供給、農作物用の肥料、緊急時の糧として生計を支えている。畜産を振興する途上国において食料の生産性向上を図るためには、家畜生産・加工技術の向上、疾病対策の強化、インフラ整備等解決しなければならない共通な課題は多い。しかし一方で、途上国の農村では、飼料不足、不適切な家畜飼養管理、畜産物の劣悪な品質管理状況、脆弱な加工流通システム、天災の影響、経済低迷等の諸要因が複雑に絡み合って、食料の生産性が確保されない状況にある。

本案件では、持続可能な農村開発により食料の生産性向上を図るために、各途上国において状況が異なる「畜産を取り巻く様々な環境」に対応した適切な畜産改善計画が策定さ

れることを目的としている。

3. 案件目標

畜産振興を担う組織において、持続的農村開発のための改善計画の方向性が整理される。

4. 単元目標

- (1) バランスが取れた畜産改善計画の方向性を検討するために、農村や農業の発展の観点を取り入れ、インセプションレポートにおける分析結果が再整理される。
- (2) 問題解決・生産性向上に向けた適正レベルの家畜生産技術が整理される。
- (3) 農畜産物・副産物の適切な利用、加工、流通を通して農村生活を改善するための方策が整理される。
- (4) 北海道・十勝の農畜産業と関連産業の視察、技術研修を通して、自国への技術導入・活用の可能性が整理される。
- (5) 自国における農畜産業の持続的発展のための問題解決・改善の方向性が示される。

5. 研修成果品

ア) 本邦研修実施前

「初期報告書 (Inception Report)」の作成

研修の主題にかかる研修員および所属組織の課題やそれに対する現在の組織としての対策・枠組みをまとめ、本邦でのコース開始時に発表する。

イ) 本邦研修終了時

「中間報告書 (Interim Report)」の作成

研修で学んだ知識や技術等を基に自国の畜産振興計画 (案) を作成し、コース終盤に発表する。

ウ) 帰国後の事後活動

「最終報告書 (Final Report)」の作成

先ず帰国後3か月以内に素案を提出し、当該素案に対してJICAより必要な助言を加えた上で、最終的にはその3か月後に研修員の所属組織に承認された最終報告書を提出する。

6. 研修員参加資格要件

(募集要項記載条件)

- ア. 畜産振興を担う行政機関・研究所・酪農協などの非営利組織の主任クラス、大学の講師クラス以上の者。
- イ. 畜産に関する技術開発・政策立案について3年以上の経験を有する者。
- ウ. 畜産振興に係る計画を企画・立案または提言できる立場にある者。

(各案件共通資格要件)

- エ. 所定の手続きにより割当国政府から推薦されること。
- オ. 大学卒業あるいは同等の学力を有すること。
- カ. TOEFL iBT 72点 (CB T 200点/PB T 533点) 以上に相当する英語能力を有すること。
- キ. 心身ともに健康なこと。
- ク. 軍に属していないこと。

7. 研修実施体制

本案件は、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構帯広国際センター（JICA 帯広）が計画するコースの実施に関する業務を国立大学法人帯広畜産大学に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営する。技術研修期間中、財団法人日本国際協力センター（JICE）所属の研修監理員を配置する。具体的業務分担は次のとおり。

(1) JICA 帯広

- ア. 実施計画書作成（案件目的、案件目標、研修期間など）
- イ. 評価
- ウ. 実施予算の執行管理

エ. 募集要項および実施要領等の作成 等

(2) 帯広畜産大学

ア. 日程表の調整・作成

イ. 講師、視察先等への連絡・確認

ウ. テキスト、資料等の手配 等

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる助言 等

(4) 研修監理員

ア. 関係者間の連絡調整

イ. 通訳・翻訳 等

8. 研修の評価

(1) 評価の目的

案件目標に基づき、研修成果の測定・分析を通じてコース終了時に当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本案件の質的改善を図る。

(2) 評価の方法

ア. コースリーダー等による到達目標の達成度把握

イ. 研修員が提出する質問票による評価

ウ. JICAによる評価

(3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 反省会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA 帯広、コースリーダー、講師、帯広畜産大学等が参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度以降の改善に向けて対応方針を検討する。

9. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィン グ

来日直後に帯広国際センター（以下OBIC: Obihiro International Center）で実施する。JICA業務およびコース概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

付帯プログラム日程（予定）

日 程 内	容
7月19日（火）	ブリーフィン グ
20日（水）	ブリーフィン グ

10. 主な宿泊場所

帯広国際センター（OBIC）

所在地：〒080-2470 帯広市西20条南6丁目1-2

Tel (0155) 35-2001 Fax (0155) 35-2213

11. その他

(1) 修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア. 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ. 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

(3) 国際理解教育

国際理解教育の支援のため、本コースに地域の小中学校や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。

以上



独立行政法人国際協力機構 帯広国際センター
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2
TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250
ホームページ : www.jica.go.jp/obihiro/
メール : jicaobic@jica.go.jp

研修員関連情報

■研修員情報(英語力はリスニング／スピーキング／読解／記述能力の順に4段階で示す。A:優、B:良、C:可、D:自信なし)

No	①氏名(姓, 名)②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
1	① Andi Hendra Purmana ② D-11-02051 ③ 35 ④ 男 ⑤ インドネシア	① 農業省 家畜および獣医学総局 評定課係員 ② 7年6ヶ月 ③ ハサヌディン大学 家畜学大学院S1(家畜栄養と食料 02年卒) ④ BBCC ⑤ (記載なし)	① 畜産業務に関するプログラミング、データ、情報作成、および広報、組織開発、家畜と動物医療業務のプログラムの実行評価、管理および会計監査の結果の承認など。 ② 地域資源を活用して、家畜に関する政策を策定、実行し、以下の開発を手助けする:飼料、反すう動物、非反すう動物の飼育、動物衛生や食料安全確保および飼育者のための獣医学公共衛生。そして公共業務の専門的技術や統合性の改善を行う。	組織として 1) 地域資源を活用し、種と家畜の入手可能性と質を向上する。 2) 地域資源の活用のために、反すう動物の頭数と生産性を向上する。 3) 地域資源の活用のために、非反すう動物の頭数と生産性を向上する。 4) 家畜衛生を改善し、無病地域を増やす。 5) 畜産製品に含まれる汚染物質や残留物質を減少する。 6) 公共サービスの質を向上する。 個人として 1) 自国における実施のために、動物医療関連のICT技術に関する自らの知識と技術を向上したい。 2) 災害後の農家の利益と持続的な農業をどのように向上するかについて、他の国々の研修員と自らの経験を分かち合いたい。
2	① MLEWAH, Taurayi Francis ② D-11-02379 ③ 37 ④ 男 ⑤ マラウイ	① マラウイ農業食料安全省 動物衛生畜産業部門 (ブランタイヤ地区)動物衛生畜産開発主席専門官 ② 4年 ③ マラウイ大学 ブンダ農学部 (修士・動物科学 01卒) ④ AAAA ⑤ (記入なし)	① 畜産関連政策および畜産プログラムの実行、財務管理、畜産に関する研修業務、年報、半期報、四半期報、月報、農産見積調査報告書の作成、および畜産農家団体の監督。 ② マラウイ国民の栄養状態および農村地域の生活の向上のために、持続性のある畜産業の開発を行い、同時に畜産製品および副産物の安全な消費を確保すること。	組織として 特に農業者団体に焦点を置いたこの研修プログラムで重点的に習得する組織化の問題解決法や戦略を用いて、マラウイにおける(家畜管理、繁殖、飼育、衛生、マーケティング、畜産品加工などの)課題を解決することを視野に入れた、持続性のある畜産プログラム計画の作成を目標としている。 個人として 特に小規模(畜産)農家の収入、食品と栄養状態の向上に有益となるような持続可能性をもたらす知識や技術を習得したい。 具体的には、小規模農家の酪農業の問題解決の分野と、農家別および地域別のそれぞれの問題に適した具体的解決法に対して特に関心がある。

No	①氏名(姓, 名)②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
3	① MAKHAMBERA, Peter ② D-11-02380 ③ 45 ④ 男 ⑤ マラウイ	① マラウイ農業食料安全省(ムズズ地区)動物衛生畜産業部門 動物衛生畜産開発専門官 ② 8年1ヶ月 ③ マラウイ大学(農学理学士・獣医学概論と実践の修了証書・副専攻:動物科学 92年卒) ④ ABAB ⑤ (記入なし)	① 1)年間事業の計画 2)畜産に関する年間事業実行の監督 3)家畜衛生および生産に関する最前線の人材の育成 ② マラウイ国民の栄養状態および農村地域の生活の向上のために、持続性のある畜産業の開発を行い、同時に畜産製品および副産物の安全な消費を確保すること。	組織として この組織は、畜産業支援を通して農村地域の生産性を向上することであるが、訓練を受けた専門スタッフが不足しているために、特に疫病管理および家畜の普及などの要望には有効に答えられていない。この研修は、マラウイの畜産の生産性の向上のための欠かせない人材育成にとって好機であり、この目標のために大いに役立つことを期待する。 個人として マラウイの農村部は特に貧困が激しく、畜産業がその解決の糸口である。しかしながら、近代的な技術がないため、この研修参加がよりよい畜産業の普及のため、および現実的な計画の実行に役立つであろう。具体的には、適切な地域産品の加工や利用、販売を通して農村地域の生活の向上を図る方法に特に関心がある。農家が適切な加工法を知らないために、遠くの市場に持っていくことができず、結局は製品を失うことが多いのが現状である。
4	① MANGADZUWA, Dickson Adrian ② D-11-02381 ③ 43 ④ 男 ⑤ マラウイ	① マラウイ農業食料安全省 動物衛生畜産業部門(シャイアーバレー地区)動物衛生畜産開発専門官 ② 4年3ヶ月 ③ マラウイ大学 ブンダ農学部(農学理学士・獣医学概論と実践の修了証書・副専攻:動物科学 06年卒) ④ AAAA ⑤ (記入なし)	① 1)畜産分野の政策の説明 2)畜産関連の農家の研修業務 3)年間事業と予算編成 4)スタッフおよび農家の研修 ② マラウイ国民の栄養状態および農村地域の生活の向上のために、持続性のある畜産業の開発を行い、同時に畜産製品および副産物の安全な消費を確保すること。	組織として マラウイは畜産品およびその副産物(牛乳や食肉)生産に関して多くの課題に直面しているため、資質の高い人材を輩出することが唯一の解決法である。その目標のため、部内でこの分野に関する研修担当者を研修することができる地位にいるこの研修員が、研修プログラムに参加することによって習得された知識を簡単に普及させることができる。 個人として シャイアーバレー地区の天候の関係で、肉牛やヤギを飼う農家が多く、その多くが乳牛への転換を望んでいるが、未だにその技術はかなり未熟である。そのため、それらの農家が持続性と収益性のある給飼を行うために、家畜栄養、および酪農管理についてのより深い知識を習得したい。
5	① MYINT LWIN ② D-11-02415 ③ 52 ④ 男 ⑤ ミャンマー	① 農業水産省 家畜飼料酪農製品事業体(LFME) 副本部長 ② 1年6ヶ月 ③ 獣医学大学(獣医学士・獣医学専攻 82年卒) ④ BBBB ⑤ JAPHA飼料工場研究(インドネシア・JAPHA飼料工場・08)	① ミャンマー北部のLFME管轄の畜産農場(鶏卵および鶏飼育、ヤギおよび羊、豚農場)の管理業務 ② 1)畜産業および畜産生産の向上 2)家畜の血統と良質な飼料の改善 3)農村地域への適切な家畜飼育ノウハウの提供	組織として LFMEは畜産業の発展により国民一人当たりの消費を向上する役割(家畜の血統の管理、上質な飼料、獣医学、ミャンマー農村地域の適切な家畜飼育)を担っており、以下を期待する。 1)獣医学技術のノウハウを向上して、畜産業の生産性を改善すること 2)この研修において技術と経験を(他の研修員と)共有すること 個人として この研修において、畜産農場の管理およびプロジェクトの計画に関する自らの知識と技術を促進することを達成したい。 畜産農業および動物医療管理に関して特に興味がある。

No	①氏名(姓, 名)②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
6	① SHARMA, Bhuvaneshwar ② D-11-02116 ③ 56 ④ 男 ⑤ ネパール	① 家畜市場促進局 畜産事業部 上級家畜開発係官 ② 2年2ヶ月 ③ ラジェンドラ農業大学(獣医学および家畜学学士 管理・繁殖・家畜栄養・医学・手術・乳牛および食肉科学・79年卒) マッセイ大学(NZ、動物科学哲学修士 植物科学、酪農生産(繁殖・飼育・管理)専攻 93年卒) ④ ABBB ⑤ 英語研修(NZ、ウェリントン・ビクトリア大学・91) シカ生産能力開発コース(NZ、マッセイ大学・92)	① 1) 繁殖に関する問題を減少し、健康な家畜を市場に出すための管理 2) 国の全ての生態学的地帯のための畜産開発とマーケティング 3) 農場での家畜、開発とマーケティングの統合 4) 「農場から鋤まで」つまり農業生産の全てにおいての衛生管理技術の改善 生産とマーケティングシステムの検証と評価 ② 適切な繁殖、飼育、管理技術およびマーケットへの繋がりを確立することにより、家畜の生産性向上を目指す組織である。適切な選択と繁殖プログラムにより、地域産の遺伝子の保全にも同様に重点を置いている。また、強化繁殖プログラムによって高い遺伝子能力を備えた畜牛と水牛を育てて商取引に利用するための資源センターを構築することも目標にしている。 畜産事業部の役割は、全ての畜産関連の最高政府機関であり、家畜の生産性向上、地方の貧困撲滅、女性の地位向上を中心としている。繁殖プログラムは最優先の取り組み事項である。	組織として 1) 高地および中程度の高原、平地の3種類の生態エリアのための、バランスのとれた畜産開発と、マーケット計画 2) 地域で改善された技術を通じての生産性向上 3) 畜産副産物を取り扱うための農村技術の向上 4) 農村貧困撲滅プログラムへの支援 5) 畜産農業による持続可能な農村開発 6) 農村地方の経済状況の改善 7) 畜産農業統合システムの計画、手配、促進、実施における、政策レベルでの能力向上。 個人として 1) 農村地域での貧困を撲滅する方法 2) 畜産システムを改善するための政策の構築を行う方法 3) 持続的な家畜生産のための新しい技術 4) 遺伝子能力の高い家畜の生産とマーケティング
7	① ACHHAMI, Keshab ② D-11-02119 ③ 51 ④ 男 ⑤ ネパール	① カブレ郡畜産事業部 上級畜産開発係官 ② 11年2ヵ月 ③ パーチャンバル大学(酪農技術修士・酪農化学、設備管理専攻・97年卒) ④ BBAB ⑤ 豚畜産(オランダ、豚畜産修了証書・94) 家畜飼料(オランダ、家畜飼料修了証書・94)	① 1) 畜産開発プログラムの計画と予算編成 2) 主に官民共同によるプログラムの実行 3) 家畜育成プログラム:外国種とのかけあわせによる地産の畜牛と水牛の品種改良、ヒツジ・ヤギの品種改良 4) 牧草飼料:家畜栄養開発プログラム 5) 家畜衛生プログラム 6) 食の安全と「ポケットパッケージ」手法:貧困の軽減、収入雇用創出家畜プログラム 7) 畜産マーケティング:牛乳、食肉、卵の市場展開開発 8) 持続可能な農業:家畜・環境保護「ロード・コリドー」セクター・プログラム 9) 同系列の省庁との協調 10) 総務管理業務 11) 監督、検証、評価、報告 ② 家畜部門は、統合的農業システムの中で不可欠な要素である。この地域では現在も伝統的な家畜生産が支配的である。畜産事業部は、適切で持続可能な繁殖、給飼、管理、衛生管理技術を通じて、畜産およびその生産性の改善を目指している。乳牛のための安価な資材、牧草、飼料の改良、家畜病の予防(寄生虫の管理)、農家の技術向上に力を注いでいる。畜産業の商業化による農業世帯の生活水準向上も目標としている。また、畜産関連の最高機関である同部門の役割として、畜産の生産性、農村の貧困削減、社会的弱者および女性の地位の向上に重点を置いている。中でも、繁殖プログラムは最優先事項である。	組織として 1) 地域の農業共同体の組織開発 2) 地域の高地、中程度の高原、平地それぞれの気候・生態系に合わせた、持続可能な畜産開発 3) 地域で改善された技術を通しての生産性向上 4) 家畜副産物を取り扱うための農村技術の向上 5) 農村貧困撲滅プログラムへの支援 6) 畜産農業により持続可能な農村開発 7) 農村地方の経済状況の改善 8) 畜産農業統合システムの計画、手配、促進、実施における、政策レベルでの能力向上。 9) 環境保護・気候変動(対策)プログラムへの支援 10) 畜産業の持続可能な商業化への支援 個人として この研修プログラムにおいて習得できる新しい技術や知識、テクノロジーなどが非常に重要である。品種改良、繁殖改良や牧草、飼料、健康管理と運営、研修活動などについての最新の技術を習得したい。その意味で、この研修プログラムが全体的に持続可能な家畜開発の水準を支援している。 特に関心があるのは、 1) 持続可能な家畜開発 2) 品種改良 3) 健康管理と運営 4) 貧困の緩和 5) 環境保護 6) 家畜普及のモデルを構築すること

No	①氏名(姓,名)②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
8	① JATOI, Muhammad Mubarak ② D-11-02511 ③ 45 ④ 男 ⑤ パキスタン	① シンド州政府畜産・水産局畜産課獣医師職員 ② 18年5ヶ月 ③ シンド州タンドジャム農業大学(獣医学修士96年卒/家畜繁殖学専攻) ④ BAAA ⑤ (記載なし)	① 家畜衛生及び畜産普及事業に従事。経営向上に向けた中心人物 ② 畜産家、漁業従事者の経営向上に向けた技術開発を通して、畜産業及び水産業分野における技術開発を推進している。人材育成を通して職業意識を高め、能力向上を図ることで技術者スタッフを育成している。	組織として 候補者の仕事研修を受講することによりレベルアップし、地域開発に裨益すること 個人として 地域住民の60%が農牧業に従事している。したがって自分が畜産業における知識、経験を向上させることは、その地方経済を活性化させ、人材育成を図ることで、地域コミュニティの貧困を軽減させる為の将来開発計画に大変役立つものである。
9	① CHAI CHOOLEE, Sahachai ② D-11-02763 ③ 43 ④ 男 ⑤ タイ	① 畜産開発局(DLD)畜産開発技術普及部・上級家畜担当官 ② 5年6ヶ月 ③ カセサート大学(理学修士 95年卒/家畜学専攻) ④ BBBB ⑤ JICAインドネシア(酪農家畜技術・05)	① 1)研究、知識開発、技術普及 2)品質基準に見合った生産能率性の改善 3)家畜疾病の予防と管理 4)畜産品に関する法律や基準に則った監督および施設管理 ② 1)現地農業普及員や農家のための研究、開発、技術普及 2)酪農家育成に関する戦略、政策分析、計画、検証の手配	組織として 農家にとって充分で持続可能な収入を得るための農業開発のための新しい知識を、日本での先例から)習得したい。タイでは農業の収入が低い、農業従事者が減少しているのが現状である。 個人として 1)国内で農業を維持することに成功した日本の農業開発の(経験から)新しい知見を学びたい。 2)同時に他国の研修員とも情報交換をしたい。 3)農業における持続性を確保し、農家が先々の世代にわたって農業を続けられる指導を行いたい。
10	① CASAS MENDY, Rafael ② D-11-01950 ③ 48 ④ 男 ⑤ ウルグアイ	① MEVIR (メビール・直訳:不衛生な地域住居の根絶のための名誉委員会(NGO))製作部門 コンサルタント技術者 ② 2年5ヶ月 ③ 国立農学大学 農業工学(農業家畜専攻 90年卒) ④ BBBB ⑤ 畑作物の種苗生産(JICA帯広・96)持続可能な農村開発(アルゼンチン INCUPO・01)	① 1)現地技術チームのための業務計画を作成 2)技術作業のモニタリングや評価 3)生産管理のカウンセリング ② 統合開発計画(生産、社会、環境、領土)に則り、地方で生活や勤務する人々のために、持続的な住居を構築する。 国内政策の計画、実行、検証、評価での格付けも行いながらも、地方とその住民のための統合的な開発に寄与する。 同時に、構築段階においても小規模農地での生産の研究を農家とともにを行い、一連の生産活動の各段階での改善方法を研究する。このようにして、住居の改善だけではなく、小規模生産者たちが家畜飼育からより良い資源を得られるように、介入していく。 MEVIRは、良い結果を生み出すためには欠かせない、搾乳場や牛舎、納屋、などの構造物の改善に力を入れてきた。	組織として MEVIRは、新しい国内介入政策に向けての統合計画の実行に直面する。 家畜農産に適用する統合プログラム(生産、社会、環境)の必要性。 個人として 1)畜産農業に割り当てられた小規模農地の持続的な開発計画を精密に構築する能力の向上 2)自分自身の専門的経験も豊かにする、他国において開発された他の技術の経験について意見交換すること 3)家族単位の生産者と仕事に取り組むための方法論を構築すること 4)小規模農家による一連の生産活動の様々な段階を整理、統合する方法に関して、特に強い関心がある。

No	①氏名(姓,名)②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
11	① MANG'WATO, Foster Mpuka ② D-11-02080 ③ 36 ④ 男 ⑤ ザンビア	① ザンビア農業大学 動物科学部 研修担当 官 ② 3年11ヶ月 ③ ザンビア大学(農学士・動物科学専攻 08 年卒) ④ ABAB ⑤ 農業開発(エジプト国際農業センター・ 09)	① 1)乳牛、肉牛、ニワトリユニット内の活動の監督 2) 畜産分野の学位または資格取得者向けの普 及員育成研修 ② 国のために質の高い農業研修および普及業務 の提供を行う。	組織として ザンビアでは、畜産の副産物の生産性の低さ、牛乳や食肉、卵など の畜産品の質の低さ、牛乳生産量が上がらない未熟な給飼方法な どの問題を抱えている。 (ザンビア農業)大学は、大学そのものとザンビア全体の小規模農家 の牛乳の生産の向上に繋がる、重要な情報源となる。 個人として 大学および農村レベルの両方で、牛乳、食肉、乳製品の生産に対し て関心がある。特に以下に興味がある。 1) 乳牛の給飼管理方法 2) 小規模農家にとっても重要な収入源となりうる牛乳から作る乳製 品の製造過程 3) 効果的な子牛の育成方法
12	① NEMASHAKWE, Mike ② D-11-02443 ③ 31 ④ 男 ⑤ ジンバブエ	① ジンバブエ農業省 家畜生産開発部門 州 肉牛および農場専門官 ② 5年6ヶ月 ③ ミッドランド・ステート大学(グエル市、理学 士・家畜・野生動物管理専攻 05年卒) ④ AAAA ⑤ (記入なし)	① 1) 州内の肉牛生産農家に対する技術と相談業 務提供および飼料生産の促進 2) 週報、月報、四半期報、年報の制作 3) 州内の普及担当者の研修 ② 畜産部門の生産性向上のために、農家および農 産業者に対して畜産技術と相談業務を提供して いる。	組織として ジンバブエにおいて畜産業は人々の生計にとって不可欠な役割を 果たしているため、持続可能な方法で発展をする必要がある。 特に栄養プログラムを通しての畜産の(生産)向上。研修員はこの部 門の研修担当者のトレーニングを担うことになる。 個人として ジンバブエの畜産の生産性向上に向けて、地域で入手可能な資源 を利用して家畜の栄養改善を促進すること。 特に関心があるのは、農産品および副産物の活用と加工について である。

付表-2

平成23年度(集団)「持続的農村開発のための畜産振興」コース日程表(暫定)

2011/6/28

日 時	区分	カリキュラム(予定)	担当講師・機関	研 修 場 所
7/18	月	来日日(海の日)		
7/19	火	入館式・集合ブリーフィング	北方圏センター	帯広国際センター
7/20	水	集合ブリーフィング		
7/21	木	副市長表敬	柏木琴美/帯広市市民活動部親善交流課	帯広市役所
		開講式		
		発表 インセプションレポート発表会	手塚雅文・小崎浩	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2501/2502
7/22	金	講義 コース概念と目的	手塚雅文・小崎浩	帯広国際センター
		講義 課題解決型コースのインストラクション	手塚雅文・小崎浩	
7/23	土			
7/24	日			
7/25	月	講義 持続的農村開発と畜産の役割 1	門平睦代/帯広畜産大学	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2502
		講義 日本の農畜産業：過去、現在、未来	耕野拓一/帯広畜産大学	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2502
7/26	火	講義 持続的農村開発と畜産の役割 2	仙北谷康/帯広畜産大学	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2502
		世界情勢と地域農業	仙北谷康/帯広畜産大学	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2502
7/27	水	講義 問題分析WS	稲田菜穂子/アイ・シー・ネット(株)	帯広畜産大学動物医療センター講義堂
7/28	木	実習 問題分析WS	稲田菜穂子/アイ・シー・ネット(株) 手塚雅文・小崎浩	帯広畜産大学本部棟大会議室
7/29	金	実習 問題分析WS	手塚雅文・小崎浩	帯広畜産大学本部棟大会議室
7/30	土			
7/31	日			
8/1	月	講義 総合的な酪農振興計画	手塚雅文	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2502
		講義 適正品種とは	手塚雅文	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2502
8/2	火	講義 品種改良への様々なアプローチ(後代検定と群検定)	鈴木三義	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2502
		講義 改良のための人工授精・ET	明見好信・北海道ジェネ	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2502
8/3	水	講義 繁殖効率を向上するためには(発情発見、人工授精の留意点)	松井基純	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2502
		実習 精液の取り扱い実習? + 問題点把握演習	手塚雅文	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2502
8/4	木	講義 受精卵移植サービス	松崎重範	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2502
		討論 到達目標に関するディスカッション	手塚雅文	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2502
8/5	金	講義 生産性向上のための家畜管理	瀬尾哲也	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2502
		講義 国際協力	小崎浩	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2502
8/6	土			
8/7	日			
8/8	月	講義 生態系・環境との共存	門平睦代	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2502
		講義 伝染病と疫学	門平睦代	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2502
8/9	火	講義 口蹄疫対策(仮称)	十勝農協連 高橋良平	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2502
		実習 口蹄疫対策(仮称)	十勝農協連 高橋良平	
8/10	水	講義 糞尿の活用法	岸本正	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2502
		実習 堆肥の作り方	岸本正	十勝牧場堆肥センター? (先方確認中)
8/11	木	講義 副産物の利用	花田正明	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2502
		実習 副産物の利用	花田正明	
8/12	金	討論 到達目標に関するディスカッション	門平睦代	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2502
		講義 乳牛の飼養管理コンサルタント	武中慎治	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2502
8/13	土			
8/14	日			
8/15	月			
8/16	火			
8/17	水	講義 牛乳生産の衛生管理	木田克弥	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2502
		実習 牛乳生産の衛生管理	木田克弥	
8/18	木	講義 暖地型牧草の利用	川本康博	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2502
		講義 暖地型牧草の利用	川本康博	
8/19	金	講義 家畜の栄養状態の把握(BCS)	木田克弥	帯広畜産大学総合研究棟 I 号館 E2502
		実習 家畜の栄養状態の把握(BCS)	木田克弥	
8/20	土			
8/21	日			

8/22	月	講義	サイレージの調製と飼料給与法	河合正人	帯広畜産大学総合研究棟Ⅰ号館 E2502
		実習	サイレージの調製と飼料給与法	河合正人	帯広畜産大学総合研究棟Ⅰ号館 E2502
8/23	火	講義	村落レベルでの普及活動	門平睦代	帯広畜産大学総合研究棟Ⅰ号館
		実習	村落レベルでの普及活動	門平睦代	帯広畜産大学総合研究棟Ⅰ号館
8/24	水	講義	家畜の栄養(途上国における諸問題)	西田 武弘	帯広畜産大学総合研究棟Ⅰ号館
		討論	到達目標に関するディスカッション	西田 武弘	帯広畜産大学総合研究棟Ⅰ号館
8/25	木	講義	家畜共済制度と機能	耕野拓一	帯広畜産大学総合研究棟Ⅰ号館 E2502
		視察	家畜共済制度と機能	耕野拓一	
8/26	金	講義	農協の組織と機能	仙北谷康	帯広畜産大学総合研究棟Ⅰ号館 E2502
		視察	農協の組織と機能	仙北谷康	
8/27	土				
8/28	日				
8/29	月	講義	牛乳の品質管理(集乳から製品まで)	西部潤	帯広畜産大学総合研究棟Ⅰ号館 E2502
		視察	グリーンツーリズム、鹿追	耕野拓一	
8/30	火	講義	牛乳・乳製品の流通-集乳・加工・流通-	仙北谷康	帯広畜産大学総合研究棟Ⅰ号館 E2502
		視察	牛乳・乳製品の流通-集乳・加工・流通-	仙北谷康	
8/31	水	視察	畜産物の自家生産と販売(更別)	河田幸視	更別チーズ工房
		視察	畜産物の自家生産と販売(大樹)	河田幸視	源ファーム
9/1	木	実習	中間計画書作成指導	手塚・小崎	帯広畜産大学総合研究棟Ⅰ号館 E2502
		実習	中間計画書作成指導	手塚・小崎	帯広畜産大学総合研究棟Ⅰ号館 E2502
9/2	金	視察	学校訪問		
9/3	土				
9/4	日				
9/5	月	講義	バイオガス-小規模プラント、ジェネレーターの活用-(仮)	梅津一孝	帯広畜産大学総合研究棟Ⅰ号館 E2502
		視察	バイオガスと堆肥センター	梅津一孝	帯広畜産大学総合研究棟Ⅰ号館 E2502
9/6	火	講義	農業改良普及制度について	森脇芳男/農業振興公社	帯広畜産大学総合研究棟Ⅰ号館 E2502
		討論	到達目標に関するディスカッション	仙北谷康	帯広畜産大学総合研究棟Ⅰ号館 E2502
9/7	水	視察	研修旅行	大西一光	
		視察	研修旅行	大西一光	
9/8	木	視察	研修旅行	大西一光	
		視察	研修旅行	大西一光	
9/9	金	視察	研修旅行	大西一光	
		視察	研修旅行	大西一光	
9/10	土				
9/11	日				
9/12	月	実習	帰国後アクションレポート完成までの課題整理	手塚・小崎	帯広畜産大学総合研究棟Ⅰ号館 E2502
		実習	帰国後アクションレポート完成までの課題整理	手塚・小崎	帯広畜産大学総合研究棟Ⅰ号館 E2502
9/13	火	実習	帰国後アクションレポート完成までの課題整理	手塚・小崎	帯広畜産大学総合研究棟Ⅰ号館 E2502
		実習	帰国後アクションレポート完成までの課題整理	手塚・小崎	帯広畜産大学総合研究棟Ⅰ号館 E2502
9/14	水	実習	中間計画書作成指導	手塚・小崎	帯広畜産大学総合研究棟Ⅰ号館 E2502
		実習	プレゼン演習	手塚・小崎	帯広畜産大学総合研究棟Ⅰ号館 E2502
9/15	木	実習	中間計画書作成指導	手塚・小崎	帯広畜産大学総合研究棟Ⅰ号館 E2502
		実習	プレゼン演習	手塚・小崎	帯広畜産大学総合研究棟Ⅰ号館 E2502
9/16	金		中間計画発表会		
			閉講式		
			閉講パーティー		
9/17	土		帰国日		

年度別受入実績表

1. 応募／選定（受入）人数

	平成22年度	平成23年度	累計
応 募 数	14名	13名	27名
受 入 数	9名	12名	21名

2. 国別受入人数

○男性 ●女性

国 名	平成22年度	平成23年度	累計
（アジア全域）			
ミャンマー		○	1名
インドネシア	○	○	2名
タイ	○	○	2名
ネパール	○○	○○	4名
パキスタン		○	1名
（アフリカ地域）			
マラウイ		○○○	3名
ザンビア		○	1名
ジンバブエ	○	○	2名
（北米/中南米地域）			
ウルグアイ		○	1名
パラグアイ	●●		2名
（大洋州地域）			
フィジー	○○		2名
合 計	6カ国 9名	9カ国 12名	11カ国 21名